



2009年(平成21年) 6月3日 水曜日

発行所:十勝毎日新聞社
〒080-8688
帯広市東1条南8丁目
電話(代表)0155-22-2121



大気球で金星大気観測

国内初、惑星望遠鏡を搭載

JAXA 大樹で2基目打ち上げ

【大樹】独立行政法人・宇宙航空研究開発機構（JAXA）は3日午前、大樹航空宇宙実験場で今年2基目となる大気球の放球に成功した。国内では初めて惑星観測用の望遠鏡を載せ、金星の大気状況の観測に挑んだ。

観測実験は立教大理学部と東北大学院工学研究科が担当。空気の影響の少ない極域成層圏に望遠鏡を搬送し、高感度の惑星紫外線・赤外線観測の実現を目指す。今回は金星の大気の上層雲を実際に観測すると同時に、同望遠鏡システムの性能を検証した。

金星の大気はほとんどが温室効果ガスの炭酸ガスで、高

温高圧な同惑星環境の要因の一つになっている。金星の大気の状態を調べることで、地球温暖化の影響の解明が期待されている。

打ち上げに使用した気球は最大膨張時で10万立方メートルの大きさ。午前4時9分に離陸し、地上約32～33キロの高さまで浮上した。搭載望遠鏡は自動制御で金星の追尾観測を行い、同11時16分、気球から切り離された。気球は同11時42分、大樹沖東方約35キロ地点に着水した。（長田純一）

大気球につり下げられ、金星の大気観測に挑んだ望遠鏡システム（3日午前3時半ごろ）